

地震に備えて防災対策を

いざというとき被害を最小限に

平成七年一月十七日に発生した阪神・淡路大震災は多大な被害を与えました。この記憶を風化させないよう一月十七日は「防災とボランティアの日」に定められています。その後も新潟県中越地震など悲劇が繰り返されています。いざというときに慌てないよう、日ごろからしっかりと防災対策をしましょう。

問い合わせは生活課 890 6238へ。



非常持ち出し品など家族で話しましょう

一昨年の新潟県中越地震では、薄れかけていた阪神・淡路大震災の悪夢をよみがえらせるような悲劇が次々と起きてしまいました。その後、福岡県西方沖や宮城県沖で震度六弱の地震が発生しています。また海外でも大地震が頻繁に発生し、地球規模での大きな問題です。地震は家屋の倒壊や地割れ、地滑り、陥没などの直接的な被害のほか、火災による二次災害も引き起こします。

一月十七日は防災とボランティアの日。特に地震の多い日本では、いざというときに大規模な地震

震が起こるか分かりません。「グラツときたらまず身の安全を確保すること」が大切。自分や家族の身の安全を一番に考え、家庭でもできる地震対策を講じておきましょう。

安心のために5つのポイント

建物の安全性を過信しない
阪神・淡路大震災では、多くの家屋が倒壊。特に築三十年以上の老朽化した家屋の被害が目立ちました。日ごろから家の内外をチェックし、危険箇所の修理・補強をして、大きな災害に

備えましょう。

家の中を総点検
災害時には家の中も危険になる可能性があります。奥行きがない背の高い家具、つり式の照明器具などは、転倒・落下防止の措置を取りましょう。

家族で防災会議
災害発生時どう行動するか、家族一人一人の役割分担を決めておきましょう。また、非常持ち出し品は、いざというとき家族に何が必要なのか話し合い、備えを万全にしておくことが大切です。

地域の人々との交流を大切に
過去の地震では、地域ぐるみの防災活動が被害の拡大を防ぐ大きな成果を挙げました。普段から近所の人とのコミュニケーションを大切に、自主防災活動にも積極的に参加しましょう。

わが町をよく知っておく
大規模災害が起こると、速やかに避難場所へ移動しなければなりません。日ごろから避難場所を確認し、家族との集合場所を確認しておきましょう。

準備しましょう 非常持ち出し品

被災地に救援物資が届くまでには三日かかるといわれています。持ち出し品はその間に必要な物を厳選しておきましょう。

寄りなどで特に必要な物にも配慮しましょう。

一次持ち出し品
大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべき物です。

貴重品 預貯金通帳 印鑑 保険証 免許証 現金(十円玉がある)と公衆電話の利用に便利)

地震の揺れと被害想定	
震度1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる
震度2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる
震度3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じる。棚にある食器類が音をたてることがある
震度4	眠っている人のほとんどが目を覚ます。座りの悪い置物が倒れることがある
震度5弱	多くの人が、身の安全を図ろうとする。食器や本が落ちたり、家具が移動することがある
震度5強	多くの人が行動に支障を感じる。たんすなど重い家具が倒れることがある
震度6弱	立っていることが困難になる。固定していない重い家具の多くが移動、転倒する
震度6強	立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛ぶ
震度7	自分の意思で行動できない。家具が大きく移動し、飛ぶ物がある

わが家の備えは「できている」「できていない」10問チェック		
時々家族で、地震が襲ってきたときの行動を話したり、余震のことや地震の後の行動について話したりしている	はい	いいえ
「その時火事だけは絶対出さない」と固く誓っている	はい	いいえ
日ごろの小さな揺れのときでも、即座に「身の安全」「火の始末」などとシナリオに従った対応をするようにしている	はい	いいえ
家具の配置や置き具合など、家の中の空間や外回り(ブロック塀など)の安全に配慮している	はい	いいえ
(中高層住宅のとき)玄関ドアは、すぐに開けに行く習慣を付けている	はい	いいえ
脱出や避難のルートになる場所には、障害になるような物は置いていない	はい	いいえ
付近の環境について、危険の度合いなどをよく知っている	はい	いいえ
(高齢や障害のある家族がいるとき)安全確保や避難時の備えは万全である	はい	いいえ
子どもには、登下校時、学校にいるとき、外で遊んでいるときの地震の際の行動について、いつも言い聞かせている	はい	いいえ
地震時の高齢者や障害者の家への支援、防火や救護のための行動など、近所との協力には積極的に臨んでいる	はい	いいえ

携帯ラジオ AM・FM両方聞ける物 予備の電池 照明器具 懐中電灯、ろうそく 非常食 乾パンや缶詰など火を通さなくても食べられる物、ミネラルウォーター 救急用品・常備薬 ばんそうこ、包帯、三角きん 胃腸薬、鎮痛剤、常備薬などその他 丈夫で動きやすい服、下着、靴下、タオル、軍手、雨具 ヘルメット、ライター(マッチ)、洗面具、生理用品など。

二次持ち出し品
組織的な救援・復旧活動が軌道に乗るまでの三日間、自活す

るのに必要な物です。

食料 簡単な調理で食べられる食品、インスタントラーメン、レトルト食品など 飲料水 一人一日リットルが目安 燃料 卓上こんろ、ガスボンベ、固形燃料など その他 鍋、やかん、毛布、使い捨てカイロなど。

過去の災害で役に立った物
トイレトーパー 本来の目的のほか、食器の汚れふきやタオルの代用に ビニール袋 大型ビニール袋は、中央に穴を開け、頭からかぶるとレインコートや防寒に使えます。段ボール箱の中に重ねれば簡易トイレに。また、水の運搬にも使えます。火災のときは空気を入れてかぶると煙を吸わずに避難できます



これらの物も役立ちます

慌てないよう 備えの確認を

大きな地震が発生したとき、被害を最小限に抑えるには、一人一人が慌てずに適切な行動を取ることが大切です。上表をチェックし、十問すべてが「はい」と答えられるよう、家庭の備えを万全に、日ごろから身を守るための準備をしておきましょう。